

基礎経済科学研究所

大阪第三学科(金融流通協同組合論ゼミ)からのたより

[第905回ゼミ報告] 2025年7月4日号

埼玉県八潮市で1月に古い水道管の腐食で道路が陥没して水浸し。その後も各地で起るが、老朽水道管の更新費用に水道料金8割値上げ必要とも…

6月25日ゼミは、佐々木隆治『マルクス 資本論』第1篇「商品と貨幣」第1章「商品」3・4節を高田の報告で行いました。第3節は資本論1巻の白眉でかつ最大の難所と。主役は相対的価値形態の商品と等価形態にある商品。等価物は現物形態で価値を表現し「直接的交換可能性」をもつ。等価形態の第1の独自性は、使用価値が反対物の価値の表現形態になり、「貨幣物神」が発生する根拠となる。第2の独自性は、具体的形態のまま抽象の人間労働を具現化する存在。第3の独自性は、私的労働でありながら直接抽象の人間労働で直接社会的に通用するもの。展開された価値形態から一般的価値形態へ、一般的等価物としてあらゆる商品への直接的交換可能性を持つ。さらに客観的な固定性と一般的社会的妥当性で一つの商品・貨幣として金を選ばれる。商品とは何か、商品の物神的性格がどこから・なぜ発生したのかの理解が資本主義を根本から理解に重要。その神秘的性格は「商品形態」から生まれる。生産物が商品交換で価値という力を持つが、生産物は生まれつき価値を持ち交換できると人々は考える。私的生産者が商品交換で無意識に様々な労働を、抽象の人間労働として等値する。物象化は『資本論』全体のモチーフであり、私的労働を越える生産形態・アソシエーションをマルクスは想定した。著者の文章の巧みな・面白さに接し、1巻への取り組みが変わる！討論では、この節を「最難関」というがなかなか理解できていない。価値形態論と交換過程論での宇野と久留間の論争はどうか。「商品語」とは。ロビンソンの労働の配分、一人の人間の場合も。ソ連の計画経済、適切な配分はできたのか、過剰生産など。自由な連合体と適切な配分。資本主義社会での生活とは、戦後の1950年代、新婚で仕事が終わるのが夜の9時、やっと帰れる、休日は月2回、月の途中に「給料の中払い」があった、と。会場参加は川口さん・山口さん・高田、オンライン参加は小野さん・斎藤さん・竹内さん・後藤さん・田中さんの合計8名の参加でした。

* 7月9日(第2週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 824 1986 7156 パスコード: 090254

* 基礎研・秋季研究大会が9月14日(日)・15日(月・祝)に、立命館大学びわこ・くさつキャンパスで開催、会場・オンラインでのご参加を！

***** ゼミ日程 *****

7月9日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
グレーバー『万物の黎明』5章 いく季節も・・・(後半) 報告・斎藤さん
7月23日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
佐々木『マルクス 資本論』1編 2章 交換過程 報告・田中さん
9月10日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
グレーバー『万物の黎明』6章 アドニス庭・不発の革命 報告者未定
その後 9/24, 10/8, 10/22, 11/12, 11/26, 12/10, 12/24

◇第三学科事務局/高田好章: ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755
HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso